

れきみん

# 資料館だより

No. Ⅲ－22

相生市立歴史民俗資料館

## 〈資料紹介16〉「ぶん福茶釜」の謎（続編） -保存処理を終えて-

元興寺文化財研究所（がんごうじ 頼柿）においてさび錆止め保存処理を行っていた三濃山の「ぶん福茶釜」が、8月30日（金）、当資料館に帰ってきました。

保存処理に合わせて、材質の分析、形状の特徴や産地・製作時期等の究明を依頼していましたが、それらについても、報告書『相生市立歴史民俗博物館所蔵「茶釜」の分析及び形状・年代の考察』に明記されています。以下、報告書に記載されてる内容について紹介します。

### 1 蓋の材質

ふた蓋の3カ所についてけいこう蛍光X線分析（XRF）を行った結果、蓋の主成分は鉄であり、微量元素としてケイ素、マンガン、カルシウム、カリウム、銅、亜鉛、ストロンチウムが確認されました。

### 2 茶釜内部の有機物

茶釜内部の剥離片についてはくりへん赤外分光分析（ATR-FTIR）を行った結果、うるし漆の可能性が高い有機物の存在が確認されました。

### 3 各部の形状

- いちもんじふた蓋…装飾がなく、平坦であることから、一文字蓋と呼ばれる形状です。
- こまみつまみ…装飾がなく、中央に設けられた孔にこうかん鑲を通すかきたて搔立とされる形状です。
- くち口（口造）…かぶ蓋を被せる茶釜の口縁部のことで、低く直線的に垂直に伸びる立口たちぐちに該当するものと思われます。
- かんつき鑲付…じょうはり持ち手を通す箇所は両肩上部に設けられていることから、常張じょうはりとされる形状です。



保存処理された「ぶん福茶釜」

- **釜肌**…茶釜本体の表面には粒状の凹凸や線状の紋様、図柄は見られません。上部を中心にクレーター状の窪みがある様子は、鑄型表面に泥状の鑄型土を付着させた後に鑄造してできる弾肌と呼ばれる釜肌を思わせます。しかし、窪みは資料全体ではなく上部を中心としているので、弾肌との断定は困難です。
- **釜形**…注口、弦（鉉）、3ヵ所に足を有する特徴から、三足手取釜とよばれる鉄瓶の祖形となる形状に該当するものと思われま

#### 4 産地及び製作年代

- **産地**…本資料に見られる鑲付や口の形状、釜肌の質感、手取釜という釜形は天明釜（栃木県佐野市）\*に多く見られる特徴であり、天明釜ないしそれに近い鑄物師によって製作された可能性が高いと思われま
- **製作年代**…本資料が天明釜ないしそれに近い鑄物師によるものと位置づけると、室町時代後半から江戸時代初期ごろに製作されたものと推測されま

現在、本資料は当資料館2階に展示されています。科学分析と調査・研究によって明らかになった新知見を踏まえて、伝説に彩られた「ぶん福茶釜」をじっくり観察してみたいかがでしょうか。

註\* 代表的な茶釜の産地として、芦屋（福岡県遠賀郡芦屋町）と天明（栃木県佐野市）があげられ、他に京都や東北地方などでも製作されたことが知られている。芦屋釜は鎌倉から室町時代初頭に始まったとされており、紋様や装飾を有し、きめ細かい釜肌を特徴としている。一方、天明における茶釜の製作は、茶の文化が発展した室町時代からとされ、荒い釜肌や華美な装飾のない素朴な様相が特徴とされる。

#### 〈引用・参考文献〉

- 公益財団法人元興寺文化財研究所文化財調査修復研究グループ 2019『相生市立歴史民俗資料館所蔵「茶釜」の分析及び形状・年代の考察』（公益財団法人元興寺文化財研究所）
- 中濱久喜 2019.1『「ぶん福茶釜」の謎(その1)』『れきみん 資料館だより』III-16（相生市立歴史民俗資料館）
- 中濱久喜 2019.2『「ぶん福茶釜」の謎(その2)』『れきみん 資料館だより』III-17（相生市立歴史民俗資料館）

（中濱久喜）

### 令和元年度特別展 記念講演会

### 「あいおいの古代窯業—生産と流通—」

窯の分布と消長、製品の特徴と変遷、生産体制と流通経路などを明らかにし、全国的な視角で「あいおいの古代窯業」の実態と特質に迫ります！

- ◇ 講師：森内秀造（元兵庫県立考古博物館調査課長）
- ◇ と き：10月5日（土）午後1時30分～3時（午後1時受付開始）
- ◇ と ころ：相生市文化会館扶桑電通なぎさホール1階小ホール
- ◇ 定 員：50名（先着順）